原因究明調査の結果、製品に起因する事故ではないと判断する案件

(1)ガス機器、石油機器に関する事故として公表したもので、製品に起因する事故ではないと判断する案件

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	機種・型式	事業者名	事故内容	判断理由	備考
1	A202200546 令和4年10月5日(秋田県) 令和4年10月13日	石油ストーブ(開放式)	KCP-E2415Y	株式会社コロナ	(火災) 当該製品を使用中、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	○使用者は、当該製品の天板に樹脂製容器を置いた状態で、最大火力で点火し使用していたところ、燃焼筒から出火したとの申出内容であった。 ○当該製品は外郭の焼損が著しく、樹脂製のしん調節つまみ、点火ボタン及び消火ボタンが溶融していたが、内部に焼損等の異常は認められなかった。 ○天板は中央からタンク室側にかけてすすにより汚損し、左側の長穴がアルミホイルで塞がれており、背面にかけて樹脂が流れ落ちた痕跡が認められた。 ○当該製品背面には線状の樹脂溶融痕が認められ、内部はしん案内筒とタンク室の間及び置台の前方右側に樹脂溶融物が認められた。 ○しん調節つまみのスピンドルの状態はDカット面が右側を向き、しんは基準面から約26mm降下しており、スピード消火位置であった。 ●当該製品は、天板に樹脂製容器を置いた状態で使用したため、樹脂が溶融、焼損し出火したものと推定される。なお、取扱説明書には、警告として「可燃物近接厳禁。火災の原因になる。」旨、記載されている。	
2	A202200757 令和4年11月30日(秋田県) 令和4年12月23日	石油給湯機	OQB-407F	株式会社ノーリツ	(火災) 建物を全焼する火災が発生し、現場に当該製品があった。	○当該製品の外観及び内部に焼損等の異常は認められなかった。 ○当該製品の排気筒は、排気トップがなく、住宅壁面のめがね石を貫通せず屋内壁面に向かって排気する状態であり、使用者は過去に落雪で排気トップが外れたことを認識していたがそのまま使用を継続していたとの申出内容であった。 ○めがね石周辺の本材が焼損し、めがね石には円状のすす及び被熱の痕跡が認められた。 ●当該製品は、落雪により排気筒の先端が脱落したが、使用者がそれを認識したまま使用を継続したため、住宅壁面のめがね石を貫通していない排気筒から排出された高温の排気ガスがめがね石周辺の本材にあたって炭化し、出火したものと推定される。なお、取扱説明書には、「排気筒に穴があいたり、外れたりしたまま使用しない。運転中に排気ガスが室内に漏れて危険である。」旨、記載されている。	
3	A202300633 令和5年10月8日(福島県) 令和5年10月20日	石油ふろがま	CK-7	株式会社長府製作所	(火災) 当該製品を使用中、異音が生じたため確認すると、当該製品を焼損する火災が発生していた。	○使用者が当該製品を点火して5分ほどで異音に気づき、煙が出ていたため電源スイッチを切ったところ、大きな音がして当該製品の外装前扉が外れた。 ○当該製品の煙突は、壁面貫通部から立ち上げがなく、吹出し口が屋内にあった。 ○当該製品の内部は、送風機の給気口近傍の断熱材に焼損が認められた。 ○当該製品は、製造時期から40年経過しており、燃焼筒及びノズルにすすの付着、燃焼室底部断熱材に灯油のしみ込みが認められた。 ○熱交換器にすすの付着は認められず、煙突に詰まりは認められなかった。 ○その他の内部部品に焼損は認められなかった。 ●当該製品は、煙突が壁面貫通部から立ち上げされておらず吹出し口が屋内にあったため円滑に排気されず、内部で異常燃焼したガスが給気口より噴出し、火災に至ったものと推定され、長期使用(製造から40年以上)により燃焼ノズルがすすにより汚損し着火不良を起こしたことも影響したものと考えられる。なお、取扱説明書には、「煙突の先端から1m以内に建物の軒がある場合は、その軒から60cm以上高く出す。」旨、記載されており、煙突先端が屋外に位置するようイラストで記載されている。	
4	A202300666 令和5年10月12日(沖縄県) 令和5年11月2日	ガスこんろ(LPガス用)	GTP-2500(株式会社長府製作所ブランド)	株式会社パロマ(株式会社長府製作所ブランド)	(火災) 当該製品を使用中、当該製品を焼損する火災が発生した。	○事故発生時、当該製品は左右のこんろを点火して使用しており、当該製品の左側にある別の業務用こんろ2台のうち、当該製品に近い1台も使用していた。 ○当該製品の外郭は、右側こんろ付近に焼損はなかったが、左側面及び樹脂製の左こんろ用点火ボタンを含め正面左側が焼損していた。 ○当該製品の内部は、左こんろ前側にある電池ケース及び左側器具栓の樹脂部が焼損しており、電池ケース上に当該製品由来ではない繊維状の炭化物が付着していた。 ○左側器具栓を分解したところ、リング付近の樹脂は焼損しておらず、ガス漏れの痕跡は認められなかった。 ○左側バーナーキャップに目詰まりは発生しておらず、ガス配管に腐食等のガス漏れの痕跡は認められなかった。 ●事故発生時の詳細な状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、当該製品に出火に至る異常は認められないことから、製品に起因しない事故と推定される。	

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	機種・型式	事業者名	事故内容	判断理由	備考
5	A202300671 令和5年10月23日(北海道) 令和5年11月6日	石油ストーブ(開放式)	RX-2221Y	株式会社コロナ	(火災) 当該製品を使用中、炎が見えたため確認すると、当該製品を焼損する火災が発生していた。	<ul style="list-style-type: none"> ○使用者は、当該製品点火後、黄緑色の樹脂製ファイルに入っていた通販チラシを見ていたところうたた寝をしてしまい、目が覚めると当該製品の天板から炎が上がっていた。 ○当該製品は天板、燃焼筒に溶融した樹脂が付着しており、外郭前面、左側面及び背面に沿って溶融した樹脂が流れ落ちた痕跡が認められ、置台に黄緑色の溶融した樹脂が認められた。 ○当該製品に異常燃焼、カートリッジタンクからの油漏れの痕跡は認められなかった。 ○当該製品近傍から、黄緑色の樹脂製ファイルが焼損した状態で発見された。 ○取扱説明書には、「可燃物近接厳禁。燃えやすいものそばなどでは使用しない。」「寝るときや外出するときは、必ず消火する。」旨、記載されている。 ●事故発生時の詳細な状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、当該製品に出火の痕跡は認められないことから、製品に起因しない事故と推定される。 	
6	A202300724 令和5年10月19日(岐阜県) 令和5年11月21日	石油ふろがま用パーナー	BM-7	株式会社長府製作所	(火災、軽傷1名) 当該製品を使用中、発煙に気づき確認すると、当該製品を接続していたふろがまが焼損する火災が発生しており、1名が軽傷を負った。	<ul style="list-style-type: none"> ○当該製品はふろがまに取り付けられており、当該製品は空だき防止機能を有していないため、ふろがまに付属していた空だき防止装置の配線が当該製品に接続することができず床に置かれていた。 ○事故発生後に現場を確認した際、浴槽の排水栓は閉まっていたが、浴槽に残っている水はわずかであり、風呂水の循環口よりも下の水位であった。 ○当該製品は、40年以上前に製造された製品で、空だき防止装置は付いていなかった。 ○当該製品に焼損は認められず、当該製品を取り付けたふろがまと浴槽をつなぐゴム製の循環パイプが焼損していた。 ○循環パイプの取付けバンド部から水が漏れた痕跡は認められなかった。 ●詳細な使用状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、当該製品を取り付けたふろがまが空だき状態となり、循環パイプが焼損したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。 	
7	A202300767 令和4年12月28日(北海道) 令和5年12月4日	石油ストーブ(半密閉式)	KS-074GST-1	サンデン株式会社	(火災) 当該製品を使用中、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	<ul style="list-style-type: none"> ○当該製品の外観は、排気筒が取り付けられている機器右側面に熱変色しやすいの付着が認められた。 ○燃焼用送風機は、付着したほこりが焼損し、空気取入口がほこりにより閉塞していた。 ○燃焼筒に接続されている排気筒エルボは、熱変色しており、内部にすすの付着が認められた。 ○点火タイマー、送風機モーター等の電気部品に出火の痕跡は認められなかった。 ○当該製品は使用者が31年前に購入し、事故発生まで1度も清掃や点検を行っていなかった。 ●当該製品は、購入後31年間、清掃が行われていなかったことから、燃焼用送風機の空気取入口に多量のほこりが堆積して給気不足となったため、不完全燃焼を起こして燃焼筒内にたまった未燃灯油に使用時の炎が引火して異常燃焼し、火災に至ったものと推定される。なお、取扱説明書には、「日常の手入れとして、ストーブにほこりが付いているときは掃除する。また、ほこりのひどい場所で使用の場合は、サービス窓を開いて燃焼用送風機のファン部のほこりを取り除く。」旨、記載されている。 	
8	A202300774 令和5年12月1日(愛知県) 令和5年12月5日	石油ストーブ(開放式)	RSX-230	株式会社トヨミ	(火災) 当該製品を使用中、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	<ul style="list-style-type: none"> ○当該製品に点火して10～15分後、当該製品から炎が出ているのを発見した。 ○当該製品の置かれていた場所の横には、当該製品よりも高い位置に、樹脂製容器が積み重ねられていた。 ○当該製品の天板、燃焼筒下部、置台等には、溶融した樹脂が付着していた。 ○燃焼筒に異常燃焼の痕跡は認められなかった。 ○当該製品に付着していた樹脂を分析すると、全てポリプロピレン樹脂であり、当該製品に由来しない成分であった。 ●当該製品に出火に至る異常は認められないことから、当該製品の天板上に載った可燃物が過熱されて出火したものと推定される。なお、取扱説明書には、「燃えやすい物のそばでは使用しない。」「不安定な物をのせた棚等の下では使用しない。落下物により火災が起きるおそれがある」旨、記載されている。 	

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	機種・型式	事業者名	事故内容	判断理由	備考
9	A202300861 令和5年12月21日(大阪府) 令和5年12月28日	ガストーチ	SCT-530	榮製機株式会社	(火災) 飲食店で当該製品を使用 中、当該製品及び周辺を 焼損する火災が発生し た。	<ul style="list-style-type: none"> ○使用者が飲食店で当該製品を使用していたところ、約30秒後にカセットボンベとの接続部から炎が出た。 ○当該製品の外観は、点火ボタンと空気取り入れ口周辺の樹脂が一部溶融し、火口先端が熱により変色していたが、火力調節つまみ及びカセットボンベ接続部に焼損は認められなかった。 ○当該製品及び接続されていたカセットボンベにガス漏れは認められなかった。 ○当該製品の火力調節つまみは、事故発生後に回収した時点で「開」の状態であり、そのままの状態類似品のカセットボンベに接続して気密性を確認したところ、火力調節つまみ及びカセットボンベとの接続部からのガス漏れは認められなかった。 ○火力調節つまみを「閉」の状態にして、類似カセットボンベを接続して水没させたところ、いずれの部位からもガスの吐出及びガス漏れは認められなかった。 ○器具栓の内径とスピンドル部のリングの外径を測定したところ、気密性が保たれる状態であった。 ○当該製品は、気化器を搭載しているため逆さ使用が可能であるが、事故発生時の向きは不明であった。 ●事故発生時の詳細な状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、当該製品にガス漏れは認められないことから、製品に起因しない事故と推定される。 	
10	A202300983 令和6年1月28日(愛知県) 令和6年2月6日	石油ストーブ(開放式)	RCA-206	株式会社トヨミ	(火災) 車庫で当該製品を使用 中、当該製品及び周辺を 焼損する火災が発生し た。	<ul style="list-style-type: none"> ○使用者は、当該製品を点火して約30分後にその場を離れたところ、約2時間後に当該製品が設置されている車庫から煙と炎が上がっていることに気がついた。 ○当該製品は全体的に焼損が著しく、樹脂製部品は全て焼失していた。 ○当該製品の前面ガード及び天板に異物の付着は認められなかった。 ○カートリッジタンクは焼損していたが、変形や穴空き等の異常は認められず、口金も閉められていた。 ○燃焼筒は、内部に異常なすすの付着は認められなかった。 ○点火つまみ及びびしん調節つまみは燃焼位置にあり、しんは燃焼位置から下がっておらず、先端にタールの付着は認められなかった。 ○油受皿に灯油漏れの痕跡は認められなかった。 ○置台に、焼損物や過熱された痕跡は認められなかった。 ○取扱説明書には、「寝るときや外出するときは必ず消火する」旨、記載されている。 ●事故発生時の詳細な使用状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、当該製品に出火に至る異常は認められないことから、製品に起因しない事故と推定される。 	
11	A202301023 令和5年12月26日(埼玉県) 令和6年2月15日	ガスこんろ(LPガス用)	C3WS6PWA(株 式会社ノーリツブ ランド:型式 N3WS6PWAS6ST E)	株式会社ハーマン(株式 会社ノーリツブランド)	(火災) 当該製品を使用中、グリ ル内の食品を焼損する火 災が発生した。	<ul style="list-style-type: none"> ○当該製品のグリル内の焼き網の上にアルミ箔を敷き、その上に調理済みの揚げ物を載せて加熱していたところ、食材から火が出ているのを発見した。 ○当該製品の外観に焼損は認められなかった。 ○当該製品のグリル内の焼き網の上に敷かれたアルミ箔の一部が焼損しており、グリル内部のサイドカバーに焼損が認められた。 ●当該製品のグリル焼き網の上にアルミ箔を敷いて、その上に揚げ物を載せて加熱したため、アルミ箔の上にたまった油脂が過熱して発火したものと推定される。 なお、取扱説明書には、「脂が出る料理には、グリル焼き網の上や下にアルミ箔を敷かない。アルミ箔の上に脂がたまり、発火する原因になる。」旨、記載されている。 	

原因究明調査の結果、製品に起因する事故ではないと判断する案件
 (2)ガス機器・石油機器以外の製品に関する事故であって、製品起因が疑われる事故として公表したもので、製品に起因する事故ではないと判断する案件

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	機種・型式	事業者名	事故内容	判断理由	備考
1			該当なし				

原因究明調査の結果、製品に起因する事故ではないと判断する案件

(3)ガス機器・石油機器以外の製品に関する事故であって、製品起因であるか否かが特定できない事故として公表したもので、製品に起因する事故ではないと判断する案件

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	事故内容	判断理由	備考
1	A202300323 令和5年6月30日(愛媛県) 令和5年7月14日	除湿乾燥機	(火災) 異音が生じたため確認すると、当該製品の電源コード部を焼損する火災が発生していた。	○当該製品は、背面の電源コードプロテクター部付近の電源コードの被覆が焦げており、その周辺の樹脂製外郭にも一部焼損が認められた。 ○電源コードは被覆の焦げが認められた箇所では片極が断線しており、断線した芯線の一部に熔融痕が認められた。 ○本体内の電気部品に焼損等の異常は認められず、電源コードを同等品の電源コードと入れ替えて動作確認したところ、正常に動作した。 ○電源コードは同等品の電源コードと同様の長さであり、芯線間の抵抗値にも異常は認められなかった。 ●事故発生時の詳細な状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、当該製品は、本体側コードプロテクター部付近の電源コード芯線における片極側の断線及び熔融痕以外に出火の痕跡は認められず、当該箇所は通常の使用において外力が加わる位置ではないことから、製品に起因しない事故と推定される。	
2	A202300356 令和5年7月7日(東京都) 令和5年7月26日	電気洗濯機	(火災) 当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	○当該製品は、2階ベランダに設置されており、事故発生時、コンセントに接続されていたが、運転中ではなかった。 ○当該製品は本体右側及び背面の焼損が著しく、右側及び背面の樹脂製外郭が焼失して脱水槽が露出していた。 ○電源コードの中間部が断線しており、断線箇所に熔融痕が認められたが、通常の使用で外力の加わる位置ではなかった。 ○操作基板、モーター、コンデンサー等、その他の電気部品に出火の痕跡は認められず、電流ヒューズも切れていなかった。 ●事故発生時の詳細な状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、当該製品に電源コードの断線、熔融痕以外に出火の痕跡は認められず、当該箇所は通常の使用で外力の加わる位置ではないことから、製品に起因しない事故と推定される。	
3	A202300402 令和5年7月16日(愛媛県) 令和5年8月7日	接続ケーブル(太陽光発電システム用)	(火災) 当該製品を焼損し、周辺を汚損する火災が発生した。	○住宅に設置された太陽電池モジュールと接続箱間を接続する当該製品の一部が焼損及び焼失し、当該部分を収納していたU字樹脂製配管も焼損した。 ○樹脂製配管の一部が壁から外れ、雨水浸入防水キャップが脱落していた。 ○当該製品の断線部に、施工時に使用された電線接続部品の一部と考えられる金属部品が1か所で確認され、当該金属部品が熔融していた。 ●事故発生時の状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、当該製品は、施工時に途中接続された箇所において異常発熱し異極間で短絡して焼損したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。	

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	事故内容	判断理由	備考
4	A202300408 令和5年7月30日(神奈川県) 令和5年8月8日	エアコン(室外機)	(火災) 当該製品を使用中、当該製品から出火する火災が発生した。	<ul style="list-style-type: none"> ○当該製品は集合住宅の2階ベランダに設置されており、当該製品の上には可燃物が置かれていた。 ○当該製品はファン側の焼損が著しく、樹脂製の吹き出しグリル及びファンが焼失し、熱交換器の配管が破裂していた。 ○基板は全体が著しく焼損し、電解コンデンサー等の一部の電子部品が溶融、脱落していたが、基板の銅箔パターン及び電子部品に出火の痕跡は認められなかった。 ○圧縮機、リアクター、ファンモーター等、その他の電気部品に出火の痕跡は認められなかった。 ●事故発生時の詳細な状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、当該製品の電気部品に出火の痕跡が認められないことから、製品に起因しない事故と推定される。 	
5	A202300409 令和5年6月28日(東京都) 令和5年8月9日	電動アシスト自転車	(重傷1名) 使用者(70歳代)が当該製品で走行中、ブレーキが効かず、ガードレールに衝突し、負傷した。	<ul style="list-style-type: none"> ○使用者が当該製品で走行中、ハンドルバーが下向きにずれてブレーキ操作ができず、ガードレールに衝突したとの申出内容であった。 ○事故発生後、販売店にて当該製品のハンドルバーが緩んだ状態であることが確認された。 ○JIS D9301:2019「一般用自転車」5.3.2.4 ハンドルバーとハンドルステムの固定強度を準用し、組立説明書の規定締付トルクの最小値より10%低い締付トルクで当該製品のハンドルバーの固定ボルトを締め付けた後、ハンドルバーに垂直下向きのトルクを1分間負荷したところ、ハンドルバーが動かないことが確認された。 ○当該製品の前後ブレーキに異常は認められなかった。 ○当該型式品の出荷時は、輸送のためにハンドルバーを下向きにずらして仮固定された状態で出荷される。 ○当該製品のハンドルバーは、販売店入荷時以降の調整固定状況が不明であった。 ○取扱説明書には、「ハンドルの調整は販売店で行う。」、「初回点検(2か月)を受ける。」旨、記載されている。 ●事故発生以前の詳細な状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、当該製品のハンドルバーの固定部品及びブレーキに異常が認められないことから、製品に起因しない事故と推定される。 	
6	A202300482 令和5年8月8日(東京都) 令和5年9月5日	ACアダプター(喫煙器具用)	(火災) 当該製品に他社製の電気製品を接続して充電中、当該製品の周辺を焼損する火災が発生した。	<ul style="list-style-type: none"> ○当該製品に他社製USBケーブルを接続して、他社製加熱式喫煙器具を充電中、喫煙器具を手に持ったところ、異常発熱していたため手を離し、床に落とした際、喫煙器具から出火した。 ○当該製品の外観に焼損等の異常は認められず、出力電圧等の動作に異常は認められなかった。 ○他社製USBケーブルに出火の痕跡は認められなかった。 ○他社製加熱式喫煙器具は、内蔵のリチウムポリマー電池セルが著しく焼損し、内部の電極体は正極アルミ箔が焼失、負極銅箔に穴空きが認められた。 ●当該製品に出火の痕跡は認められないことから、他社製加熱式喫煙器具に内蔵のリチウムポリマー電池セルから出火したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。 	(A202300792と同一事故)

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	事故内容	判断理由	備考
7	A202300526 令和5年9月4日(茨城県) 令和5年9月14日	パワーコンディショナ(太陽光発電システム用)	(火災) 異音がしたため確認すると、当該製品を焼損する火災が発生していた。	<p>○事故発生の1か月前、当該製品が故障したため、使用者が事業者へ修理を依頼した。</p> <p>○修理事業者は修理を訪問時の当日中に完了できず、後日改めて修理することとしていたが、修理未完了の状態にて撤収する際、太陽光パネルの入力スイッチ及び外部接続されていた蓄電池ブレーカーを切らず、使用者に「リモコン操作をしない。」旨を伝えていなかった。</p> <p>○当該製品の動作記録には事故発生の3日前、故障状態で運転が再開された記録が残っていた。</p> <p>○当該製品内部の樹脂製カバーは、下部の一部に溶融、穴空きが生じており、穴の近傍でAC基板のフィルムコンデンサーが焼損し、内部の素子が炭化していた。</p> <p>○焼損したフィルムコンデンサーから上方の電気部品及び内部配線の一部焼損が認められたが、フィルムコンデンサー以外の電気部品に出火の痕跡は認められなかった。</p> <p>●当該製品は、修理事業者が後日、改めて再修理作業をするため、当該製品を修理未完了の状態にて撤収した際、スイッチを切って、通電を停止する、また使用者に操作しないことを伝える等の所定作業を行わなかったため、再修理される前に当該製品が運転されたことで、故障していたAC基板のフィルムコンデンサーで内部短絡が生じて異常発熱し、出火したものと推定される。</p>	
8	A202300605 令和5年9月15日(神奈川県) 令和5年10月5日	携帯電話機(スマートフォン)	(火災) 当該製品に他社製のACアダプターを接続して充電中、当該製品を汚損し、周辺を焼損する火災が発生した。	<p>○当該製品内蔵のバッテリーは、事業者の正規代理店により交換されたものであり、事故発生以前に膨張していたとの申出内容であった。</p> <p>○当該製品に出火の痕跡は認められなかった。</p> <p>○バッテリーは著しく焼損し、電極体の一部が欠損し、内部には溶融痕が生じていた。</p> <p>○当該製品の内部部品が本来とは異なる順序でねじ止めされており、他のねじでは工具穴の潰れたねじがあったほか、バックパネルの内側に無数のひっかき傷が認められた。</p> <p>○取扱説明書には、「自身で修理や電池の取り外しは行わない。」旨、記載されている。</p> <p>●当該製品に出火の痕跡は認められないことから、内蔵されていたバッテリーが異常発熱して出火したことにより焼損したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。</p>	(A202300604と同一事故)
9	A202300621 令和5年9月25日(京都府) 令和5年10月17日	自転車	(重傷1名) 使用者(70歳代)が当該製品で走行中、旋回したところ、バランスを崩し、転倒、胸部を負傷した。	<p>○使用者は、当該製品の前かごに荷物を入れて走行中に旋回したところ、バランスを崩して転倒した。</p> <p>○当該製品の走行試験を行ったところ、ハンドル、走行性能及びブレーキ性能に異常は認められなかった。</p> <p>○当該製品は、車体にBAAマーク及び点検整備済シールが貼付されており、事故発生の約7週間前に点検されていた。</p> <p>●事故発生時の詳細な状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、当該製品のハンドル、走行性能及びブレーキ性能に異常は認められなかったため、製品に起因しない事故と推定される。</p>	

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	事故内容	判断理由	備考
10	A202300680 令和5年10月7日(神奈川県) 令和5年11月8日	食器洗い乾燥機	(火災) 異音が生じたため確認すると、当該製品の電源プラグ及び周辺を焼損する火災が発生していた。	<p>○事故発生時、当該製品の電源プラグは、事業者名、型式不明の1口延長コードに接続されていたが、当該製品は運転中ではなく、本体に焼損は認められなかった。</p> <p>○電源プラグの樹脂製外郭及び中子の一部が焼損し、栓刃は両極に熔融痕が認められ片極の先端が焼失していたが、内部のカシメ部に溶断は認められなかった。</p> <p>○当該製品が接続されていた延長コードは、片極の刃受金具の大半が欠損し、もう片極の刃受金具が溶断していた。</p> <p>●当該製品は、電源プラグの栓刃と延長コードの刃受金具との間で接触不良が生じ、延長コードの刃受部の絶縁樹脂が炭化して出火したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。</p>	
11	A202300698 令和5年10月11日(神奈川県) 令和5年11月15日	ノートパソコン	(火災) 学校で当該製品のACアダプターのプラグ部を焼損する火災が発生した。	<p>○小学校の教室内で、当該製品の電源が入らないとの児童からの申出があり、教員が当該製品にACアダプターを接続したところ、焦げたようなにおいがした。</p> <p>○当該製品は、学習支援用の教材として児童に配布されたものであった。</p> <p>○当該製品本体は、左右側面のUSBコネクタ一部に焼損が認められたが、その他に外観上の異常は認められなかった。</p> <p>○付属のACアダプターの外観に異常は認められなかったが、プラグ部のUSBコネクタの内部が焼損していた。</p> <p>○当該製品本体の動作を確認したところ、異常は認められなかった。</p> <p>●事故発生時の詳細な状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、USBコネクタ内部に導電性異物が侵入して電源ピンと金属製外枠が短絡し、異常発熱した可能性が考えられ、製品に起因しない事故と推定される。</p>	
12	A202300706 令和5年11月11日(静岡県) 令和5年11月17日	踏み台(アルミニウム合金製)	(重傷1名) 当該製品を使用中、支柱が折れ転倒し、左手首を負傷した。	<p>○使用者によれば、事故発生時、使用者は当該製品の天板に乗り、高さ2.5～3.0mの垣根を剪定していたところ、当該製品の支柱が突然折れたため転落したとの申出内容であった。</p> <p>○当該製品は、支柱の1本が最下段の踏ざん取付穴の位置で破断しており、分離した支柱端側の破断部は、踏ざん側が製品内側へめくれるように変形し、反対側が伸張していたことから、支柱は内折れと推察された。</p> <p>○強度及び肉厚は、いずれも基準値を満たしており、異常は認められなかった。</p> <p>○破断面を確認したところ、疲労破壊ではなく瞬時に大きな力が加わったことで破断したものと推察された。</p> <p>○同等品を用い、SG基準(CPSA 0015「住宅用金属製脚立」)に基づき、静荷重試験を実施した結果、SG基準を満たしていた。</p> <p>○同等品を側面が上面になるように設置し、1本の支柱下方に高さ1.4mから30kgの重りを落下させたところ、最下段の踏ざん取付部の取付穴位置で支柱が破断し、当該製品と同じ破断面となった。</p> <p>○当該型式品は、SG基準(CPSA 0015「住宅用金属製脚立」)のSG認証を受けている。</p> <p>○取扱説明書及び本体表示には、「一般屋内用である。用途以外の使い方をしない。」「昇降面の左右方向に転倒しやすいので十分に注意する。」旨、記載されている。</p> <p>●事故発生時の詳細な状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、当該製品の支柱の強度及び肉厚に異常は認められず、支柱端部が通常使用における荷重方向と異なる内側方向に破損していたことから、使用者が当該製品に乗って作業中にバランスを崩して転落した可能性が考えられ、製品に起因しない事故と推定される。</p>	

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	事故内容	判断理由	備考
13	A202300783 令和5年11月28日(埼玉県) 令和5年12月7日	電気ストーブ	(火災) 当該製品を使用中、当該製品の電源プラグを焼損する火災が発生した。	<ul style="list-style-type: none"> ○事故発生時、当該製品は他社製延長コードの3口タップに接続しており、電源プラグのコードプロテクター部から出火した。 ○当該製品の本体は焼損しておらず、電源プラグはコードプロテクターと電源コードの境目で断線しており、断線部に熔融痕が認められた。 ○電源プラグ本体部は断線部近傍で変形していた。 ○3口延長コードとの接続部で、電源プラグの樹脂製外郭の一部に焼損が認められ、片方の栓刃は変色し、金属光沢を失っていた。 ○当該製品の電源プラグを接続していた3口タップの刃受金具は確認できなかった。 ○取扱説明書には、「電源コードや電源プラグを乱暴に扱ったり、損傷したものは使用したりしない。火災の原因になるため、容量15A以上の家庭用コンセント交流100Vに単独で接続する。」旨、記載されている。 ●事故発生以前の詳細な使用状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、当該製品の電源プラグに過度な外力が加わったため、芯線が断線し、スパークが生じ、出火したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。 	
14	A202300794 令和5年11月24日(大阪府) 令和5年12月11日	折りたたみ机	(重傷1名) 当該製品を持ち運びしていたところ、手が滑り、当該製品が落下し、右足指を負傷した。	<ul style="list-style-type: none"> ○使用者が当該製品を段ボールから取り出し、手に持って運んでいた際に天板が滑りやすかったため落としてしまい、足の指を骨折したとの申出内容であった。 ○当該製品は、外観に傷又は付着物等の異常は認められなかった。 ○当該製品及び同等品について、被験者(女性2名、男性3名)が天板の側面を持って運んだが、いずれも滑って落とすことはなかった。 ○同等品及び他社類似品(3種)の天板について滑りやすさを摩擦試験機で比較した結果、顕著な差異は認められなかった。 ○当該製品については現状維持のため、傷が付く摩擦試験は実施できなかった。 ●事故発生時の詳細な状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、当該製品は、外観及び構造に異常が認められず、天板の滑りやすさが他社類似品と同程度であることから、製品に起因しない事故と推定される。 	
15	A202300843 令和5年12月15日(東京都) 令和5年12月25日	電動車いす(ハンドル形)	(重傷1名) 店舗の駐輪場で当該製品で走行中、駐輪中の自転車に接触後、自転車転倒防止柵に衝突し、転倒、負傷した。	<ul style="list-style-type: none"> ○使用者は、商業施設の駐輪場の前を当該製品に乗車して直進していた際、止まっている自転車に左前方から接触後、自転車転倒防止柵に衝突して当該製品ごと左に横転し、負傷した。 ○当該製品は、ハンドルの右側のレバーを手前に引くと前進し、左側のレバーを手前に引くと後進し、レバーを深く引くほど走行速度が速くなる運転操作方法であった。 ○当該製品は、右前輪及び前輪カバーに擦れ痕、左前輪近傍の床下部品に変形が認められた。 ○当該製品の電動走行を行った結果、前後左右の走行及び停止動作に異常は認められなかった。 ○当該製品のログ情報を確認したところ、走行中のエラーは認められなかった。 ○当該製品を納車時、販売店により使用者へ走行方法等の操作説明が実施されていた。 ●事故発生時の詳細な状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、当該製品の走行及び停止動作に異常が認められないことから、製品に起因しない事故と推定される。 	

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	事故内容	判断理由	備考
16	A202300867 令和5年12月21日(岐阜県) 令和6年1月5日	電気温風機	(火災) 当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	<ul style="list-style-type: none"> ○当該製品は、台座の本体背面側が焼損して穴が空き、本体の背面はすすが多く付着して、電源コードを引っかける下側の樹脂製フックが溶融していた。 ○台座焼損部で電源コードが焼損し、本体側コードプロテクターの出口付近でコードの片側が断線し、芯線の一部に溶融痕が認められた。 ○首振りモーター、転倒時オフスイッチ、ヒーター等の電気部品に溶融痕等の出火の痕跡は認められなかった。 ●事故発生以前の詳細な使用状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、当該製品は、電源コードの本体側コードプロテクター出口付近に過度な外力が繰り返し加わったため、芯線が断線、スパークし、出火したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。 	
17	A202300890 令和5年3月1日(兵庫県) 令和6年1月11日	線香(電池式)	(火災) 当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	<ul style="list-style-type: none"> ○当該製品は単5形アルカリ乾電池を2個直列に使用しLED素子で点灯する製品であった。 ○当該製品は全体的に著しく焼損していた。 ○基板は焼損していたが、銅箔パターンに溶断等の異常は認められず、出火の痕跡は認められなかった。 ○使用されていた乾電池に膨張等の異常は認められなかった。 ●詳細な使用状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、当該製品に出火の痕跡が認められないことから、製品に起因しない事故と推定される。 	
18	A202300894 令和6年1月2日(京都府) 令和6年1月12日	プラズマテレビ	(火災) 当該製品を使用中、異音が出たため確認すると、当該製品を溶融する火災が発生していた。	<ul style="list-style-type: none"> ○当該製品は、本体に異常は認められず、ACインレット周辺のみが焼損しており、ACインレット内の栓刃が溶断していた。 ○電源コードソケットは、電源コードと刃受金具のかしめ部に異常は認められなかったが、刃受け部分が溶融していた。 ○電源コードは、固定バンドで固定されていなかった。 ○本体表示には、「電源コードは確実に差し込む。」旨、記載されており、図入りで電源コードの固定方法が記載されていた。 ○当該製品は、2年前に親戚から譲り受けたものであり、設置は親戚が行い、使用者が電源コードに触れることはなかった。 ●事故発生以前の詳細な使用状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、当該製品のACインレットと電源コードソケットの接続部の嵌合が緩んだため、接触不良が発生し異常発熱して出火したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。 	

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	事故内容	判断理由	備考
19	A202300915 令和6年1月10日(東京都) 令和6年1月22日	エアコン(室外機)	(火災、軽傷1名) 当該製品を使用中、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生し、1名が負傷した。	<ul style="list-style-type: none"> ○当該製品は、前面左側から中央部にかけて著しく焼損しており、樹脂製のファンガード、プロペラファン等が焼失していた。 ○制御基板は、受熱により電気部品の一部が脱落していたが、電流ヒューズは切れておらず、基材に欠損及び穴空きは認められなかった。 ○圧縮機、ファンモーター、リアクター等、その他の電気部品及び内外連絡線に出火の痕跡は認められなかった。 ●事故発生時の詳細な状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、当該製品に出火の痕跡が認められないことから、製品に起因しない事故と推定される。 	
20	A202300920 令和6年1月13日(千葉県) 令和6年1月23日	エアコン(室外機)	(火災) 当該製品を使用中、異音が生じたため確認すると、当該製品を焼損する火災が発生していた。	<ul style="list-style-type: none"> ○当該製品は樹脂製の前面カバー、プロペラファン、右側面下方の閉鎖弁カバー等が焼失し、著しく焼損していた。 ○電源基板及びその他の電気部品に出火の痕跡は認められなかった。 ○内外連絡線は、閉鎖弁付近で速結端子を用いて途中接続されており、接続金具には熔融痕が認められた。 ○施工事業者は不明であるが、当該製品の施工に製造事業者は関与していなかった。 ○据付説明書には、「火災の原因となるため、配線の途中接続はしない。」旨、記載されている。 ●当該製品は、内外連絡線が速結端子で途中接続されたため、接続部で接触不良が生じて異常発熱し、出火に至ったものと推定され、製品に起因しない事故と推定される。 	
21	A202300922 令和6年1月10日(埼玉県) 令和6年1月23日	布団乾燥機	(火災) 当該製品を使用中、火災警報器が鳴動したため確認すると、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生していた。	<ul style="list-style-type: none"> ○当該製品は、温風吹出しホースがある右側面から背面にかけて著しく焼損し、ホースは熔融して外れ、内部のヒーターが露出していた。 ○ヒーター下部に位置する送風用ファンのケーシング内部に紙くず、樹脂片等の異物が侵入しており、一部に焼損が認められたが、当該製品内部に異物が侵入した経緯及び時期は不明であった。 ○ホースは、吹出口に格子状の樹脂製ガードがあった。 ○当該製品に侵入していた異物を取り出し、同等品のホース吹出口から当該製品に侵入していた異物を落とし入れたところ、当該製品と同様に送風用ファンのケーシングの内部に侵入した。 ○送風用ファンモーター、サーモスタット及び内部配線等、その他の電気部品に出火の痕跡は認められなかった。 ○取扱説明書には、「吹出口に異物を入れない。異常発熱による発火の原因になる。」旨、記載されている。 ●事故発生以前の詳細な使用状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、当該製品の吹出口から異物が侵入していたため、使用時にヒーターの熱により異物が発火し、当該製品に延焼したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。 	

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	事故内容	判断理由	備考
22	A202300924 令和5年12月28日(東京都) 令和6年1月23日	ヘアドライヤー	(火災) 当該製品を使用中、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	<ul style="list-style-type: none">○使用者が当該製品を洗面所で使用中、当該製品の電源コードから出火した。○当該製品は、インターネットで購入した中古品で取扱説明書はなく、購入時から電源コードが捻れていたとの申出内容であった。○電源コードの本体側プロテクターの端部で被覆が焼損しており、焼損部の芯線のほとんどが断線し、断線部に熔融痕が認められた。○電源コードは全体的に捻れが認められた。○当該製品は電源コードの断線部以外に焼損は認められなかった。○本体表示及び取扱説明書には、「電源コードが傷んでいる時は使用しない。火災の原因となる。」旨、記載されており、取扱説明書には、「電源コードを無理に曲げたり、捻ったり、破損するようなことはしない。火災、ショートの原因となる。」旨、記載されている。●事故発生以前の詳細な使用状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、電源コードの本体側プロテクター端部に過度な応力が繰り返し加わったため、電源コードの芯線が断線し、スパークが生じて焼損したものと推定される。	
23	A202300938 令和6年1月10日(大阪府) 令和6年1月26日	照明器具	(火災) 当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	<ul style="list-style-type: none">○当該製品は、2世帯住宅(集合住宅内)の使用頻度の低い方の玄関に設置されており、事故発生以前から使用されていないとの申出内容であった。○当該製品は、ケースウェイ(電気配線を収納するための樹脂製ケース)を用いて天井に施工された引掛シーリングに取り付けられていた。○当該製品の樹脂製カバー及びカバーをフランジに固定するための樹脂製部品が焼失していた。○ソケットの各接点金具に異常発熱の痕跡は認められなかった。○取り付けられていた白熱電球は、当該製品の適用電球60Wに対し90Wであった。○取扱説明書には、「ケースウェイに設置しない。」「適用電球は器具表示のものを使用する。」旨、記載されている。●事故発生時の状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、当該製品に出火の痕跡は認められないこと、設置状況及び適用外電球の使用が事故発生に影響した可能性が考えられることから、製品に起因しない事故と推定される。	
24	A202300953 令和5年12月25日(愛知県) 令和6年1月29日	電気洗濯機	(火災) 倉庫で当該製品をコンセントに接続していたところ、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	<ul style="list-style-type: none">○当該製品は全体的に焼損しており、樹脂製部品は熔融して底部に堆積していた。○電源コードは、製品外部にある箇所の被覆はほぼ焼損しておらず、製品内部にある箇所は、被覆が焼損していたが熔融痕等の出火の痕跡は認められなかった。また、途中の電流ヒューズは切れていなかった。○制御基板は全体的に焼損していたが、局所的な焼損等の出火の痕跡は認められなかった。○モーター、給水弁、電源スイッチ用リレー等、その他の電気部品に出火の痕跡は認められなかった。●事故発生時の詳細な状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、当該製品の電気部品に出火の痕跡は認められないことから、製品に起因しない事故と推定される。	

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	事故内容	判断理由	備考
25	A202300978 令和5年12月13日(神奈川県) 令和6年2月2日	オーブントースター	(火災) 当該製品を使用中、当該製品及び周辺を汚損する火災が発生した。	<p>○使用者は、当該製品の焼網にアルミホイルを敷き、冷凍唐揚げ数個を載せて、200℃で6分加熱したが、加熱が不十分であったため再加熱をした5分後に庫内から出火していた。</p> <p>○当該製品本体は外観上の異常は認められなかった。</p> <p>○庫内は、下側ヒーター表面にすす及び油分が付着しており、アルミホイルで巻かれたくず受皿には油がたまり、炭化物が付着していた。</p> <p>○付属のトレーの使用は認められなかった。</p> <p>○サーモスタット及びタイマーの動作に異常は認められず、また上下ヒーターの抵抗値は正常であった。</p> <p>○内部配線、電源コード等、その他の電気部品に出火の痕跡は認められなかった。</p> <p>●当該製品は、油分を含む調理物をアルミホイル上に載せて加熱調理したため、アルミホイルから漏れた油分等が下側ヒーターで過熱されて発火、庫内が焼損したものと推定される。なお、取扱説明書には、「アルミホイルを使用している場合、油が漏れることがあるため、フライ等は必ずトレーを使用する。調理物の油が落ちたり、はねたりして出火する原因になる。」旨、記載されている。</p>	
26	A202300994 令和5年12月10日(兵庫県) 令和6年2月7日	光回線終端装置	(火災、死亡2名) 当該製品を使用中、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生し、2名が死亡した。	<p>○事故発生時、当該製品はLANケーブルで電話機用ルーター及び事業者型式不明の無線ルーターと接続されており、これらの電気製品が焼損していた。</p> <p>○当該製品本体及び背面のケーブル接続部に出火の痕跡は認められなかった。</p> <p>○当該製品のACアダプターに出火の痕跡は認められなかった。</p> <p>○当該製品と接続していた電話機用ルーターは、電源コードに出火の痕跡は認められなかったが、本体の下半分が焼失しており、残存した制御基板にも著しい焼損が認められた。</p> <p>○当該製品と接続していた無線ルーターのACアダプターに出火の痕跡は認められなかったが、ルーター本体は確認できなかった。</p> <p>●事故発生時の詳細な状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、当該製品に出火の痕跡は認められず、製品に起因しない事故と推定される。</p>	(A202301049と同一事故)
27	A202300998 令和5年12月20日(京都府) 令和6年2月8日	卓球台	(重傷1名) 公共施設で当該製品を移動させたところ、当該製品が倒れ、右足指を負傷した。	<p>○使用者は、当該製品を1人で折りたたみ、天板面を基準に垂直方向へ移動させていた際に当該製品が転倒し、天板と床の間に右足を挟まれ負傷した。</p> <p>○使用者は当該製品の取扱説明書を見ておらず、当該製品を1人で移動させていたとの申出内容であった。</p> <p>○当該製品のキャスターに割れ、欠け、引っ掛かり等の異常は認められなかった。</p> <p>○当該型式品は、収納状態での転倒傾斜角度が12度であり、SG基準(CPSA 0134「卓球台」)の10度以上を満たしていた。</p> <p>○施設の責任者によれば、当該製品は事故発生以前に故障はなかったとのことであった。</p> <p>●当該製品は、キャスターに異常が認められないことから、取扱説明書に従わない方法で移動させたために転倒したと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。なお、天板裏面に貼付されている取扱説明書には、移動時の注意として「天板・枠板の外側部分を持ち、2名同時に同じ程度の力でゆっくりと移動させる。」旨が文書と図で記載されており、図には天板面を基準に垂直方向への移動を禁止する旨が記載されている。</p>	

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	事故内容	判断理由	備考
28	A202301037 令和6年2月6日(東京都) 令和6年2月20日	エアコン	(火災、軽傷2名) 当該製品を使用中、異音がしたため確認すると、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生しており、2名が軽傷を負った。	<ul style="list-style-type: none"> ○当該製品の運転を開始した約10分後、当該製品から発煙し、当該製品下部より溶融した樹脂が落ちてきた。 ○当該製品の樹脂製外郭は焼失していた。 ○電源コードは、中間部で切断され、長さ約50cmの単線ケーブルが、途中接続され延長されていた。 ○途中接続されていた接続部は、電源プラグ側では圧着スリーブでカシメ接続、本体側は手より接続されており、手より接続されていた箇所では片極が溶融し、接続部分が焼失していた。 ○金属製カバーに覆われた電装箱内の電源スイッチ及び表示基板、センサー、サーミスター等の低電圧部品は確認することができなかった。 ○ファンモーター、制御基板等、その他の電気部品及び内外連絡線に出火の痕跡は認められなかった。 ○電源コードが途中接続された経緯等は確認することができなかった。 ○取扱説明書及び据付説明書には、「火災の原因になるため、電源コードの加工や途中接続はしない。」旨、記載されている。 ●当該製品は、電源コードを途中で切断し、継ぎ足した単線ケーブルと手より接続されていたため、接続部で接触不良が生じて異常発熱し、出火したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。 	
29	A202301038 令和6年2月6日(京都府) 令和6年2月20日	布団乾燥機	(火災) 当該製品を使用中、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	<ul style="list-style-type: none"> ○事故発生の30分程前に寝具を暖めるために当該製品の温風吹出ホースを寝具間に挿し込んでスイッチを入れておいたところ、当該製品のホースが焼失し、ホース近傍の樹脂製外郭が焼損した。 ○当該製品の分解調査をしたところ、本体内部に金属製耳かき棒が混入していた。 ○ヒーターの下方に位置する送風用シロッコファンの全ての羽根が破損し、飛散した羽根の一部が焼損して外郭下部に溶着していた。 ○タイマースイッチ、ヒーター線、ファンモーター等の電気部品に異常は認められず、ホースコネクタ近傍以外の樹脂製外郭内部に焼損等の異常は認められなかった。 ●事故発生時の詳細な状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、当該製品の電気部品に異常は認められず、当該製品内部に金属異物が混入した際シロッコファンの羽根と干渉し、羽根の一部が破断してヒーターに接触、焼損したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。 	
30	A202301062 令和6年1月29日(大阪府) 令和6年2月29日	電気ストーブ(カーボンヒーター)	(火災、死亡1名) 当該製品を使用中、当該製品及び建物を全焼する火災が発生し、1名が死亡した。	<ul style="list-style-type: none"> ○当該製品は、電源コードが途中で断線し、断線部付近に著しい焼損が認められた。 ○電源コード断線部の両極間に溶融痕が認められ、断線部付近の芯線にねじり接続された痕跡が認められた。 ○本体の外郭樹脂は一部焼損していたが、内部部品に焼損は認められなかった。 ○本体前面に可燃物の付着は認められなかった。 ○取扱説明書には、「電源コードを加工しない。火災、感電の原因になる。」旨、記載されている。 ●当該製品は、電源コードが不適切な方法により加工されていたため、異常発熱して異極間で短絡し、周辺の可燃物が焼損したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。 	

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	事故内容	判断理由	備考
31	A202301078 令和6年2月4日(埼玉県) 令和6年3月6日	電気掃除機	(火災) 当該製品を使用中、当該製品の電源コード部を焼損する火災が発生した。	<ul style="list-style-type: none"> ○当該製品の電源コードは、電源コードのプラグ側コードプロテクター部が屈曲し、屈曲した部分に焼損が認められた。 ○電源プラグに焼損は認められなかったが、栓刃に変形が認められた。 ○当該製品本体に出火の痕跡は認められなかった。 ●当該製品は、電源コードのプラグ側コードプロテクター部に屈曲等の過度な外力が加わったため、芯線が断線してスパークが生じ、焼損したものと推定される。なお、取扱説明書には、「電源コードを無理に曲げない、引っ張らない、ねじらない。」「電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに必ず先端の電源プラグを持って抜く。感電、短絡、火災の原因になる。」旨、記載されている。 	
32	A202301087 令和6年2月28日(京都府) 令和6年3月7日	エアコン(室外機)	(火災) 当該製品を使用中、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	<ul style="list-style-type: none"> ○当該製品は外観上、正面右側の端子盤及び冷媒管取付部付近の焼損が著しく、背面部の焼損も正面から見て右下側が著しかった。 ○制御基板は、基板上の各電子部品に出火の痕跡や、基板材の欠損等の出火の痕跡は認められなかった。 ○端子盤は焼損していたが、端子盤の機器側の端子及び内外連絡線の端子盤接続箇所には溶融等の出火の痕跡は認められなかった。 ○ファンモーター、圧縮機等のその他の電気部品に出火の痕跡は認められなかった。 ●事故発生時の詳細な状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、当該製品の電気部品に出火の痕跡が認められないことから、製品に起因しない事故と推定される。 	
33	A202301109 令和6年2月26日(和歌山県) 令和6年3月13日	電子レンジ	(火災) 当該製品を使用後、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	<ul style="list-style-type: none"> ○使用者は事故発生の30分前に当該製品のオープン機能で餅を焼いて食べたとの申出内容であった。 ○当該製品は外観上、底面及び右側面の背面側に熱による変色が認められ、ドア及び操作パネルの外郭の樹脂部品が焼失していた。 ○庫内は全体的にすすが付着し、炭化物が堆積していたが、庫内にスパーク痕等の異常は認められなかった。 ○電源コードの制御基板への接続端子は、片側の先端に若干の溶融が認められたが、配線カシメ部に溶融等の異常は認められなかった。 ○制御基板、マグネトロン、インバーター基板等、その他の電気部品に出火の痕跡は認められなかった。 ●事故発生時の詳細な状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、当該製品の電気部品に出火の痕跡が認められないことから、製品に起因しない事故と推定される。 	

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	事故内容	判断理由	備考
34	A202301121 令和6年2月29日(東京都) 令和6年3月15日	換気扇(ダクト用)	(火災) 当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	<ul style="list-style-type: none"> ○当該製品は24時間換気システムの一部として天井裏に設置する換気扇の子機で、事故発生場所である施工中の一般住宅には当該製品の他、親機1台及び同等品の子機3台が設置されていた。 ○事故発生前日、作業員が当該製品を強運転で動作させたまま帰宅して、翌日に事故現場の住宅に入ったところ、当該製品が設置されていた天井付近から出火していた。 ○当該製品の樹脂製外郭は焼失していた。 ○当該製品内部の電気部品、親機1台及び同等品の子機3台に出火の痕跡は認められなかった。 ○当該製品と親機を接続する屋内配線の断線部に熔融痕が認められた。 ●事故発生時の詳細な状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、当該製品の電気部品に出火の痕跡は認められないことから、製品に起因しない事故と推定される。 	
35	A202301134 令和6年2月6日(東京都) 令和6年3月21日	温水洗浄便座	(火災) 異臭がしたため確認すると、当該製品のコード部を焼損する火災が発生していた。	<ul style="list-style-type: none"> ○当該製品の便座コードの絶縁被覆は、本体側プロテクター部根元付近で焼損して、穴空きが生じていた。 ○便座コードに捻れが認められた。 ○便座コードの絶縁被覆に硬化、ひび割れ等の異常は認められなかった。 ○本体内部の電気部品に焼損は認められなかった。 ○施工時の便座取付け状況、清掃方法等の詳細な状況は不明であった。 ○取扱説明書には、「お手入れとして便座は取り外して清掃でき、当該製品を取り付ける際、便座コードに捻れがないことを確認する。」旨、記載されている。 ●事故発生以前の詳細な状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、当該製品の便座コードが捻れていたため、便座開閉を繰り返した際に便座コードの芯線が断線し、スパークが生じて出火したものと推定される。 	
36	A202301145 令和5年10月14日(山梨県) 令和6年3月22日	ガス漏れ警報器	(火災) 当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	<ul style="list-style-type: none"> ○当該製品本体の樹脂製外郭は焼損していたが、原形をとどめていた。 ○電源コードは、電源プラグから9cmの箇所付近で断線し、断線箇所から約7cm分が確認できず、断線部に熔融痕が認められたが、当該箇所は通常使用時に外力が加わらない箇所であった。 ○断線部より本体側の電源コードにおいて、絶縁被覆の損傷が複数箇所認められ、その内1か所で芯線が露出していたが、断線及び熔融痕は認められなかった。 ○本体内部の制御基板及び電源プラグ等その他の電気部品に出火の痕跡は認められなかった。 ○取扱説明書には、「火災の原因になるため、電源コードを傷つけたり、無理に曲げたりしない。」旨、記載されている。 ●事故発生以前の詳細な使用状況等が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、当該製品は本体外部の電源コード中間部の熔融痕以外に出火の痕跡は認められず、当該箇所は通常の使用において外力が加わる位置ではないことから、製品に起因しない事故と推定される。 	